

○上石勲、山口悟、長峰聡(防災科研雪氷)

2018年に大雪となった福井県大野市の荒島岳北東斜面(図1)で、2月13日と3月9日に流下延長2km以上の性質の異なる大規模な雪崩が2回発生した。現地調査概要を示す。

発生した斜面、雪崩の発生状況は図 1 のとおりである。2 回の雪崩とも道路に設置されたスノーシェッドよりも幅が広く流れ、道路上にデブリが堆積した。2 月 13 日の雪崩は道路下のダム湖上を流下しさらに、対岸を乗り越えていた(図2)。ダム湖には雪崩による倒木やデブリが湖面に浮かんだ状態であった。3 月 9 日に発生した雪崩の発生区を上空から調査した結果(図 3)、表層雪崩の破断面と推定される形跡が確認された。2 回目の雪崩はアメダス九頭竜(標高 436m)、アメダス大野(標高 182m)での気象積雪状況(図 4)から、発生区付近では雨や湿った雪が 8 日～9 日午前にかけて降り、上載荷重が増加したことも発生要因であると考えられる。

